

茶道具 柄杓の新たな活用

## 竹漆絵 ペンレスト

谷口博山 蒔絵工房



- 茶道具の柄杓は、職人が竹を加工して作られる非常に手の込んだものですが、汚れがついたり、水漏れしたりして、役目を終わると廃棄されています。
- その独特な形状を有効活用し、丁寧に切断、表面を漆で仕上げることにより、新しい価値を持たせた独自性のある加工品として生まれ変わらせました。
- 愛着のある柄杓を、とことん使ってあげたいという考えに基づいています。

### 審査委員コメント

壊れてしまった柄杓を、漆で装飾して筆置きとして再利用するものです。愛着のある茶道具を捨てるのではなく、長く使って欲しいという想いが込められている点を評価します。量産には向いていないが、職人の技巧を活かした一品であり、今後の展開が楽しみです。